町民のひろば

優秀作品（水道施設見学感想文コンクール）

〝水〟

横芝小学校四年　菱木知文君

きょう、東金浄水場へ行くはずだったのに、東金浄水場の前の道路で工事をしているので、光浄水場へ行くことになりました。

青年バスの「千鳥号」とマイクロバスで光浄水場へ向かいました。光浄水場は、すこし小高い所にありました。バスからおりて、浄水場のしばふをうえてある広場の所で、五十分ぐらい、係の人から水道やいろいろなしせつの話がありました。

話が終わると、三組と四組にわかれて、三組は中を見ることになりました。建物で一番目に見たへやは、パックを、着水井に送るへやでした。次は、えんそのタンクがおいてあるへや、あと、一階は三つぐらい見ました。そして、次に二階へ行って、水しつけんさ室を見たあと、屋上へ行きました。東西南北にはいろいろなけしきが見えて、いいながめでした。係の人にもいろいろしつ問しました。そして、二階へおりて、運転室へ入りました。そこには、コンピューターがならんでいました。テレビカメラで、中や外のようすがボタン一つでわかります。あと、着水井の水の量が、かみにきろくされたり、水の量のメーターが、いっぱいあります。そして、水そうには魚が、かってあり、浄水場でつくった水のえんそをとって、いれていました。なぜかというと、その水にがいがあったら、魚はしんでしまうからです。

次に、きかいで、水をけんさするへやをみました。そこには、水そうがあって、栗山川の水、沈でん池の水、浄水池に入っている水とか、順々に、水がきれいになるようすがわかります。次にスライドを見ました。利根川から、家庭にきれいな水がくるまでを見ました。両総用水のスライドや松尾の配水場、東金の配水場、などの配水場のスライド、浄水場での水をきれいにする順じょ。などいろいろな、スライドがありました。

今度は、外のようすを見ました。はじめに着水井。着水井のふかさは、およそ五メートル。おちたら粉みじんだと思ってびくびくしました。そこの上の所に細いパイプがあって「あれなに」ときいたら「あれは、パックという薬だよ」と係の人が答えてくれました。次に、フロック形せい池。ここでは、大きな歯車をゆっくり回して、ゴミをまるめていました。どうしてまるくなるかというと、パックという薬が、ゴミをすいよせて、かたまるからです。

次に沈でん池を見ました。沈でん池では、フロック形せい池でまるめたフロックを、沈でんさせていました。次は、ろか池。ろか池は、こまかいゴミを取りのぞく所でした。すなや小石のそうを通って、きれいになっていました。そして、きれいになった水にもう一度えんそを入れて、浄水池へおくります。次は、池でん池やろか池などで、出たゴミをしょりする所でした。浄水池を見たかったけど、しばふの、地面の下にあるので、見られませんでした。

最後に、地下にある、送水ポンプを見ました。プラモデルのモーターの何百ばいもあるモーターでした。これで外のようすは終わりました。

ぼくは、この浄水場やまた、配水場、取水場などのしせつがあって、安全な水があってしあわせだと思います。人間にとって水は命のようなものだと思います。それは、人間も動物も、植物もみんな水があって生きているからです。

横芝俳壇

横芝句会三月例会

春分やほのぐとして老ごころ　土屋　栗水

春分の湯呑の罅を見限りぬ　成田　懍子

春分や精進揚を子は好かず　宇井　芝童

額の芽のまだ温く温くと苞被り　原　ひさし

摘むあてのなき桑の芽を見て通り　向後　雅子

畦を刈る手元芽柳銀色に　若梅あやめ

啓蟄の箒目しかと立てにけり　藤代　ゆう

梅の庭父が子を呼ぶ竹刀持ちて　池田　和代

誰も居ぬぶらんこの揺れ木の芽風　木下石果子

木の芽垣内外で交す里訛り　安井ゆづる

シクラメン舗道にせり出し置かれあり　佐久間実枝子

木の芽匂ふガイドブックを耽り見る　住母家千夫

国境の峠は長く木の芽ふく　佐々木久子

競歩選手くねくね通り木々芽吹く　三枝　句城

大欅芽吹く点滴おのづから　石毛　石亭

はぐれ鷺とまる老木芽吹きけり　鈴木　南知

土筆野や風が運べる童べ唄　上町　鈴木　要

次回　日時　五月四日（月）

兼題　夏めく　海芋